

地域しごと支援センターちば事業

実績額 23,740 千円 (うち交付金 11,870 千円)

1 事業の目的・概要

地域が必要とする人材を県外から呼び込むとともに、地元人材の県内就職による労働力確保を図るため、県外からの転職希望者や若年者等に対して、電話や面談による個別相談や職業紹介を行ったほか、県内中小企業との交流イベント等を実施し、県内での就職促進を図った。

2 事業の内容

(1) 個別相談

○随時相談

千葉県ジョブサポートセンター（千葉市中央区）内に「地域しごと支援センターちば」を設置し、県外からの転職希望者等への相談に対応するスタッフを配置。

受付：月～金 9時～17時 土 10時～17時

(H30.8月より第2・第4土は休館)

〈R1 年度実績〉
地域しごと支援センターちば相談実績 201 名



センター窓口での個別相談対応

○相談ブース等出展による出張相談

就職支援協定締結大学※等における就職相談会 等

※ 就職支援協定締結大学

(県外大学との「就職支援に関する協定」の締結)

学生の県内企業への就職・定着を促す環境の整備に向け、県と大学が相互に連携・協力し、学生の本県への就職や地元定着の促進を目的とする協定を平成31年3月に県が12大学と締結。

〈R1 年度実績〉
相談ブース等出展 (28回) 利用実績 143 名

(2) イベント

開催日	イベント名	R1 年度 利用者実績
10月19日	ふるさと暮らしセミナー 「はたらく×くらす ちょうどいい千葉 千葉の魅力発信セミナー」	16名
11月7日	県外大学と県内企業との合同面談会	— 参加数 ・大学：14校 ・企業：30社
12月14日	就労応援女子カフェ	7名
3月4日・5日	合同企業説明会 ※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止。 ※代替措置として、当日参加者に配布予定であった 出展企業紹介ガイドブックを、「千葉県地域しごと NAV I」に掲載。	—
合計		23名

事業名	「地域しごと支援センターちば」事業	
担当課	商工労働部雇用労働課	
総合戦略記載箇所	大項目：(2) “国内外の多くの人々が集う” 魅力あふれる千葉づくり 中項目：②居住地として選ばれる千葉づくり	
【本事業における重要業績評価指標（KPI）】		
指 標 名	実績値	目標値
地域しごと支援センター利用者数	367 人	200 人
【事業効果の判定】		
①地方創生に非常に効果的であった (例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) ②地方創生に相当程度効果があった (例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) ③地方創生に効果があった (例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) ④地方創生に対して効果がなかった (例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合)		
【要因・課題】（取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた目標達成に必要な課題）		
<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、目標値を上回る利用者があり、大いに成果があったが、令和元年度が終期となっていることから、関連事業を円滑に引継ぎ、効率的・効果的に事業展開を行う必要がある。 ・今後も少子高齢化が進むと見込まれる中、地域が必要とする人材を県外から呼び込むこと、地元人材の県内就職の促進を図るなど本県の将来を担う人材の確保に取り組む必要がある。 		
【改善策・取組方針】（要因・課題を踏まえた具体的な取り組み（令和2年度に向けた取組の修正・改善））		
<ul style="list-style-type: none"> ・若年層への就労支援はジョブカフェちばが引き継ぎ、地域しごと支援センター事業の成果を活かし、県外に就学する学生等を対象とした相談や県内企業との交流イベント等を実施する。 ・また、県外からの転職希望者に対する就労支援については、生活相談などきめ細かな支援を行う、千葉県ジョブサポートセンターにおいて、個別相談を実施する。 		

ちば新農業人サポート事業

実績額 12,446 千円（うち交付金 6,223 千円）

1 事業の目的・概要

新規就農希望者に対し、ワンストップでの相談窓口を設置して円滑な就農を支援するとともに、研修会や交流会を通じて、農業技術・知識の習得や、地域の農家・新規就農者同士の交流を促し、地域農業の担い手としての定着・育成を図った。

2 事業の内容

(1) 新規就農相談センターの設置

新規参入希望者が、千葉県での就農に関する様々なアドバイスを受けられるよう、県内 13 箇所にて新規就農相談センターを設置した。

また、青年農業者等育成センター（千葉県園芸協会）を設置し、就農相談対応や無料職業紹介を行うほか、農林水産就業相談会や県域での新規就農者の交流会を開催した。

〈R1 年度実績〉

就農相談件数：724 件

農林水産就業相談会（令和元年 11 月 23 日（土）、来場者：50 名）

農業法人等就業相談会（令和元年 8 月 3 日（土）、来場者：54 名、出展：17 経営体）



農林水産就業相談会の様子

(2) 農家後継ぎ等就農促進

県内の高校生等を対象に、地域における先進的な経営事例や先輩農家を紹介することにより、農業の魅力を PR し、就農意欲の向上を促した。

〈R1 年度実績〉参加者：延べ 399 名

(3) いきいき帰農者研修

定年退職者や U ターンの新規就農希望者に対し、就農をサポートするための研修を実施した。

〈R1 年度実績〉対象者：82 名



千葉県新規就農者交流会の様子

(4) 新規参入者定着支援

新規参入者を対象とした地域別の研修会や交流会を実施し、地域の指導農業士、農業士、先輩新規参入者等から栽培技術や経営に関する助言をもらうとともに、新規参入者同士の交流を促進することにより、定着を図った。

〈R1 年度実績〉

開催：15 回（県域 1 回、地区別 14 回）

（うち県域）千葉県新規就農者交流会（令和 2 年 2 月 18 日（火）、参加者 31 名）

事業名	ちば新農業人サポート事業	
担当課	農林水産部担い手支援課	
総合戦略記載箇所	大項目：(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり 中項目：②力強い農林水産業の確立	
【本事業における重要業績評価指標（KPI）】		
指 標 名	実績値	目標値
新規就農者数	317 名	450 名
【事業効果の判定】		
①地方創生に非常に効果的であった(例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)		
②地方創生に相当程度効果があった(例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
③地方創生に効果があった(例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
④地方創生に対して効果がなかった(例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合)		
【要因・課題】(取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた課題)		
<ul style="list-style-type: none"> ・他産業の就業環境が改善し、担い手確保が競合したため、新規就農者が減少している。 ・近年増加傾向の農外からの参入者やUターン、定年帰農者等様々な経歴の新規就農者・就農希望者がいるため、農業の魅力をPRするとともに年代や経験に応じた研修を行い、就農・定着に繋げる必要がある。 ・新規参入者のなかには地縁がないため地域で孤立し、定着が危ぶまれる者がいる。 		
【改善策・取組方針】(要因・課題を踏まえた具体的な取り組み(令和2年度に向けた取組の修正・改善))		
<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農相談センターでのきめ細やかな相談対応や就農相談会等で先輩就農者の体験発表の場を設け、農業の魅力について引き続きPRする。 ・高校生等の若年層に対しては、農業への理解を深め、職業選択の一つとしてもらえるよう地域の生産者との交流や農家派遣実習等を実施する。定年帰農者等を対象とした研修では、地域の特産品目等での講義、実習を通じて、地域の担い手の確保・育成を図る。 ・新規参入者に対しては交流会の開催や組織活動、地域活動への参加を促し、地域ぐるみで担い手の育成が図れるようにする。 		

地域で育てる新農業人研修事業

実績額 1,800 千円（うち交付金 900 千円）

1 事業の目的・概要

指導農業士等の先進農家や市町村等が設ける実践農場で新規就農希望者を研修生として受け入れ、研修から就農まで地域ぐるみで一貫した支援をすることで、確実な就農と定着を図った。

2 事業の内容

(1) 新農業人・実践農場研修モデル事業

農協が設置した実践農場で新規就農希望者を研修生として受け入れ、地域の関係機関が連携して、技術習得から農地の確保、就農後の営農まで一貫して支援をすることで、新規就農希望者の円滑な就農・定着に繋げた。

〈R1 年度実績〉

研修生数：6 名

研修受入機関及び品目：君津市農業協同組合（カラー、メロン、トマト、インゲン、イチゴ）



研修生（左）と指導農家（右）

（栽培ほ場でマンツーマンの実践的な研修を受けています）

(2) プロ農家育成インターンシップ事業

新規就農希望者を研修生として受け入れて実践的な指導と就農支援を行う県内先進農家を登録し、農業事務所がマッチングを行うことで、新規就農希望者の円滑な研修と就農を支援した。

〈R1 年度実績〉

研修生数：5 名

品目：露地野菜(多品目)、施設野菜(イチゴ)、露地果樹（なし）

研修地：八街市、東金市、山武市、大網白里市、いすみ市

事業名	地域で育てる新農業人研修事業	
担当課	農林水産部担い手支援課	
総合戦略記載箇所	大項目：(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり 中項目：②力強い農林水産業の確立	
【本事業における重要業績評価指標（KPI）】		
指標名	実績値	目標値
新規就農者数	317名	450名
【事業効果の判定】		
①地方創生に非常に効果的であった(例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)		
②地方創生に相当程度効果があった(例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
③地方創生に効果があった(例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
④地方創生に対して効果がなかった(例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合)		
【要因・課題】(取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた課題)		
<ul style="list-style-type: none"> ・他産業の就業環境が改善し、担い手確保が競合したため、新規就農者が減少している。 ・担い手の高齢化に伴い、新規参入者受入れ体制を整える産地が現れ始めているが、研修地が限定的であるため、希望する地域・品目で研修を受け難い新規就農者もいる。 ・新規参入者は地縁がないため、地域で孤立することがある。 		
【改善策・取組方針】(要因・課題を踏まえた具体的な取り組み(令和2年度に向けた取組の修正・改善))		
<ul style="list-style-type: none"> ・ちば新農業人サポート事業を活用し、農業の魅力をPRする。 ・受入れ体制を整えた県内外の先進地域の紹介等を実施し、農業者、関係機関が一体となった新規参入者受入れ体制の整備を促し、就農希望者のニーズに応えられるよう、県内各地で研修受入を可能にする。 ・研修希望者と受入先とのマッチングを行い、研修から就農後まで地域から一貫した支援が受けられるようにし、新規参入者が孤立しないように支援する。 		

空き公共施設等を活用した企業進出支援事業

実績額 15,620千円（うち交付金7,810千円）

1 事業の目的・概要

県北東部から南部地域では、少子高齢化や過疎化等により、今後も人口減少が見込まれるとともに企業の立地が進みにくい地域であることから、地方創生による地域活性化を図ることは重要な課題となっている。

このような地域で増加傾向にある小学校や幼稚園などの空き公共施設のほか空き家や空き店舗を活用し、地元市町村や金融機関、地元大学等と連携しながら企業誘致を図ることで地域経済の活性化を図る。

2 事業の内容

(1) 進出可能性のある企業と市町村とのマッチング

- ・企業と市町村のマッチング件数：171件
- ・空き公共施設への企業進出件数：6件 5市町村
市町村別件数内訳：南房総市2件、九十九里町1件、長生村1件、君津市1件、銚子市1件

(2) 空き公共施設等活用フォーラムの開催

- ・令和2年1月23日（木）千葉銀行本店3階大ホール
参加企業：46社 ブース出展市区町：11市区町

(3) 空き公共施設等視察バスツアーの実施

- ・第1回「中房総ツアー」：令和元年11月8日（金）
視察先：いすみ市、長南町、市原市 参加企業等：16社
- ・第2回「北総ツアー」：令和元年11月26日（火）
視察先：銚子市、東庄町、香取市 参加企業等：25社

(4) コンソーシアム構築支援業務

- ・勝浦市：立地企業の運営施設（旧小学校）の周知を行い稼働率の底上げを支援
- ・香取市：金融機関や産業振興センターなどとのネットワーク構築支援
- ・いすみ市：産学金官の会議にて参加者との意見交換による情報共有の実施



空き公共施設等活用フォーラム



空き公共施設等視察バスツアー
中房総ツアー（いすみ市）



コンソーシアムの
連携イメージ

事業名	空き公共施設等を活用した企業進出支援事業	
担当課	商工労働部企業立地課	
総合戦略記載箇所	大項目：(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり 中項目：①地域の特性に応じた戦略的な企業誘致の推進	
【本事業における重要業績評価指標（KPI）】		
指 標 名	実績値	目標値
空き公共施設等への進出企業数	6 件	5 件
企業と市町村とのマッチング件数	171 件	100 件
【事業効果の判定】		
①地方創生に非常に効果的であった (例: 全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合) ②地方創生に相当程度効果があった (例: 一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合) ③地方創生に効果があった (例: KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合) ④地方創生に対して効果がなかった (例: KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合)		
【要因・課題】（取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた課題）		
<ul style="list-style-type: none"> ・チラシの作成やHP掲載、機関誌への掲載等により十分な事前周知を行ったほか、連携する市町村のブース出展によりフォーラムを通じて多くのマッチングを創出した。 ・地域の紹介を含めたわかりやすい資料や市町村担当者の的確なPRにより、マッチングを契機としてその後の現地視察や、実際の企業進出に繋がる案件が創出された。 ・一方で、希望する地域に空き公共施設の登録がないケースや、空き公共施設の規模や貸付条件等の面においてニーズに合致しない案件も複数あった。 ・マッチングを重ねるものの、企業ニーズに合致しないことにより企業進出まで至らない、あるいは、企業誘致のノウハウ不足等により企業ニーズが把握できないといった課題を抱えている市町村もある。 		
【改善策・取組方針】（要因・課題を踏まえた具体的な取り組み（令和2年度に向けた取組の修正・改善））		
<ul style="list-style-type: none"> ・今後もより多くの企業と市町村とのマッチング機会を多く創出するため、アンケートの実施等により進出可能性のある企業の発掘に努める。 ・市町村における空き公共施設の活用に係る合意形成に協力することで、受け入れ可能な空き公共施設の掘り起こしを行い、企業の幅広いニーズに対応する。 ・企業情報を保有する金融機関や中小企業支援機関などの関係機関を公募やサウンディングの際に紹介するなど、各市町村における自発的な誘致活動の底上げを図る。 		

ちば起業家応援事業

実績額 16,700千円（うち交付金 8,350千円）

1 事業の目的・概要

本県では、高齢化が他の都道府県と比較して急速に進み、既存の中小企業、特に地方部における小規模事業者が加速度的に減少することが予想される。

就業機会を求める若年層や働く世代の県外への流出を防ぎ、地域の活性化につなげるため、女性・若者・シニア等の新たな発想による起業を促進する方策として、起業機運の醸成・啓発から優秀な起業家の発掘・育成、実際の起業に向けた人脈形成や販路開拓等の経営サポートまで、一貫した支援を行う。

2 事業の内容

(1) ビジネスプラン・コンペティション

県内の様々なニーズに対応した、新たな発想・手法による起業を積極的に応援するため、本県の課題解決につながるビジネスアイデア・プランを広く募集し、応募者に対するプレゼン指導等の支援を提供しながら、評価・表彰をした。

〈R元年度実績〉応募総数：68件

ビジコン応募用紙



(2) 起業家交流会

地元起業家が事業に懸ける想いを語るプレゼンや、来場者同士の交流等、顔の見えるビジネスマッチングの機会を提供する交流会を開催した。

〈R元年度実績〉開催回数：5か所、参加者数：延べ580名

(3) 起業家応援イベント

地域を超えて起業家を応援する大規模イベントとして、「ビジネスプラン・コンペティション」のファイナリストによる最終プレゼン・最終審査と表彰式を実施するとともに、起業家や支援者、創業支援事業者等との交流会、起業家に役立つセミナー、相談ブース設置等を実施することで、より広く起業について周知し、起業意欲の増進を図りながら、地域を超えたビジネスマッチングの機会を提供した。

〈R元年度実績〉参加者数：延べ2,500名



(4) フォローアップ支援等

「ビジネスプラン・コンペティション」等で発掘した優秀な起業家や起業予定者に対し、実際に起業する際や起業した事業を軌道に乗せる際に必要な知識・ノウハウについてアドバイスを行う専門家を派遣した。〈R元年度実績〉派遣企業数：3社

過去の起業家応援事業の関係者等に対し、実践的な知識、ノウハウの取得を図ることを目的として、営業販売・販売ノウハウ、事業計画の策定等を図ることを目的とし、全3回のスキルアップ研修を実施した。

〈R元年度実績〉参加者数：132名

また、各地域での「起業家交流会」前に、交流会でプレゼンを行うプレゼンターを集め、ビジコン内容のブラッシュアップ会を実施した。交流会の参加満足度：満足度93%（アンケート回答者のうち9割以上が「満足」又は「やや満足」と回答。）

(5) 情報発信

県内で実績のある起業家の事例集を作成した。

〈R元年度実績〉配付部数：1万部

また、起業家や起業予定者に向け、起業機運を高めるコンテンツ、事例集に掲載された起業家についての情報、当事業や公的支援機関等での支援情報・施策案内などを、ホームページやSNS等を使い、効果的に発信した。

〈R元年度実績〉ちば起業家応援事業 Facebook アカウントへのいいね件数：1,759件

(R2.3.31時点)

事業名	ちば起業家応援事業		
担当課	商工労働部経営支援課		
総合戦略記載箇所	大項目：(1) “一人ひとりの働きたい” がかなう千葉づくり 中項目：①地域の創意工夫による経済活性化の取組の促進		
【本事業における重要業績評価指標 (KPI)】			
指標名	実績値	目標値	
起業家応援イベントの参加者数	2,500人	2,500人	
【事業効果の判定】			
①地方創生に非常に効果的であった (例:全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合)			
②地方創生に相当程度効果があった (例:一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)			
③地方創生に効果があった (例:KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)			
④地方創生に対して効果がなかった (例:KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとはいえないような場合)			
【要因・課題】(取組推進に当たっての問題点、問題点を踏まえた目標達成に必要な課題)			
・「起業家交流会」については、起業家交流会を過去39回開催したため、県内市町村の多くで起業家交流会のノウハウが浸透されていると考えられるが、単独で主体的に企画・運営を行うことが難しい人口規模の小さな自治体では開催されにくい傾向がある。			
【改善策・取組方針】(要因・課題を踏まえた具体的な取り組み(令和元年度に向けた取組の修正・改善))			
・「起業家交流会」において実施するビジネスプラン発表会で最多得票を得たプレゼンターは、「ビジネスプラン・コンペティション」の一次審査通過の特典を付与し、併せて「ビジネスプラン・コンペティション」への応募を促すなど、興味関心を惹くための周知方法や、応募方法の見直しを行う。また、これまでの創業支援に加え、事業承継を活用した第二創業等の啓発、支援を実施する。			
・起業家交流会の開催に意欲のある地域を中心に、対象地域を広域として開催をすることで近隣市町村へも効果が波及するように努める。			